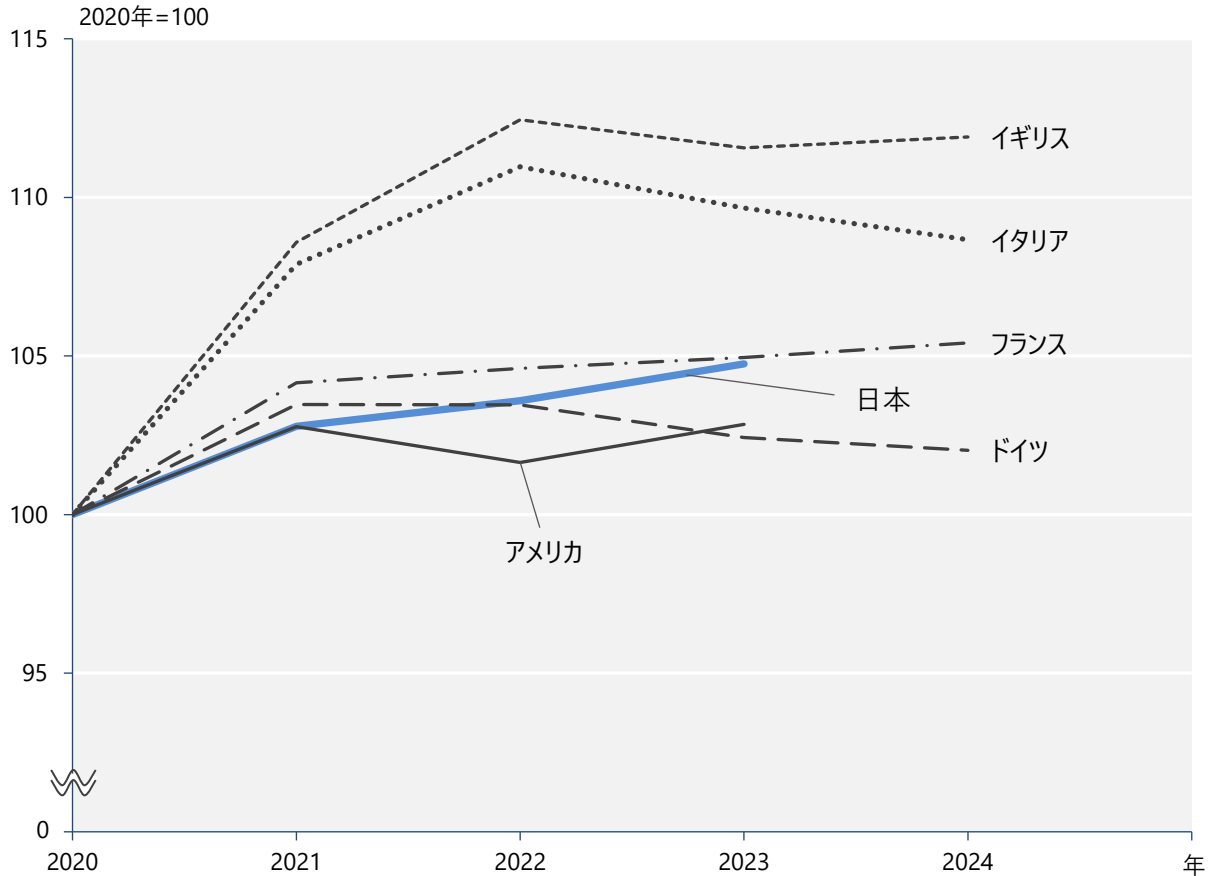


1-3 労働生産性水準



関連表 p.44 「第 1-18-1 表 労働生産性水準（就業者一人当たり GDP）」

上図に示した労働生産性は、就業者一人当たりのGDP（購買力平価で米ドル換算したもの）を2020年 = 100として示したものである。日本の労働生産性をみると、2023年にかけて上昇しており、上昇幅は上記6か国中ではイギリス、イタリアを下回っているものの、2023年はアメリカとドイツを上回りフランスとほぼ同程度の伸びとなっている。就業者1人当たりGDPの水準でみると、日本は上記6か国中で最も低くなっている。

なお、一般に、労働生産性の国際比較を行う際には、一国の労働生産性は、GDPを労働投入量で除して算出するが、労働投入量を「労働者数」とするか、「労働者数×労働時間」とするか等によって、その数字の持つ意味は異なったものとなること、サービス業の労働生産性の国際比較においては、サービスの質などは考慮されない点等にも留意する必要がある。